

高槻市市長 濱田剛史様

2026年 7月 24日

日本共産党高槻・島本地区委員会

地区委員長 浅沼和仁

日本共産党高槻市会議員団

団長 中村 れい子

暮らし応援の緊急要望

物価高騰がとまりません。円安やイラン戦争の影響で、さらなる物価上昇への不安も大きくなっています。ナフサ不足で建築業などは物資が入ってこないため、仕事ができない状況があり、倒産する事業所もあります。国民生活は物価高に収入が追い付いていません。今、一番大変なのは国民の暮らしです。国民の所得が増え、暮らしが安定することが大事です。

高槻市ではこの間、水道料金の基本料の無償化、また9月からは8回目のプレミアム商品券の利用が始まります。それでも市民の暮らしは大変です。夏休みを前にNPO法人キッズドアが実施した調査では困窮家庭の多くが休み期間中、食事量の制限やエアコンの使用制限を余儀なくされると答えています。回答者の9割以上がひとり親家庭です。酷暑の中、クーラーがあっても電気代が高いので、つけられないという高齢者やシングルマザーへの直接的な支援が必要です。ボランティアで実施しているフードバンクでは実施ごとに利用する人が増え、短時間で用意していた物品がなくなるといった状況です。

この夏に備えて、緊急に暮らし応援の施策を希望します。また、物価高騰は夏以降も続き、市民の暮らしはさらに大変になります。高槻市においては来年度も見据えた長期的な暮らし応援を今後も実施するよう要望します。

1. 小中学校の夏休み期間に食料支援などを行うこと。
2. 高齢者・障害者・低所得者世帯、ひとり親世帯等を対象にエアコンの購入や修理費用への助成を行うこと。エアコン使用による負担軽減のための電気代補助を実施すること。
3. 生活保護利用者に対する夏季見舞金の支給や食糧支援を実施すること。
4. 夏の猛暑での熱射病対策として、民間施設のクリーンシェルターを増やすこと。
5. 公共施設に給水機の設置、無料で利用できる給水スタンドの案内を行うこと。民間事業所にも呼びかけること。
6. ナフサ由来の資材不足で仕事ができなくなっている実態を調査したうえで、支援を検討すること。
7. 子育て世帯等に秋以降、お米の支給など物価高騰に対する独自支援を実施すること。
8. 公共のトイレに生理用品を置くこと。